	会議録
会議名	令和7年度第1回丸亀市総合教育会議
開催日時	令和7年7月25日(金)9:00~10:20
開催場所	丸亀市役所 5 階委員会室
出席者	出席委員 松永恭二(市長)、末澤康彦(教育長)、立石陽志、久保博紀、松岡舟、井下由美、(以上敬称略) 事務局 市長公室長 栗山佳子 市長公室政策課 課長 真鍋裕章、副課長 藤井慶子 市出席者 教育部長 山下友通 教育部終務課 課長 土井節子、副課長 後藤幸功
	学校教育課 課長 岩井俊明、副課長 今井達也
議題	(1) 教育大綱の見直しについて 
傍聴者	0人
発言者	議事の概要及び発言の要旨
真鍋課長	ただ今から令和7年度第1回丸亀市総合教育会議を開会します。本日の協議事項は、「教育大綱の見直しについて」の1件です。 協議事項に入りますが、会議の進行につきましては市長の方からよろしくお願いします。
松永市長	本日はお忙しい中、丸亀市総合教育会議にご出席いただき誠にありがとうございます。今年度広島小中学校が再開したことや、フレッシュオールスターゲームが丸亀で開催されたこと、とりわけフレッシュオールスターゲームについては、教育の一環として建設されたレクザムボールパーク丸亀に誘致でき、たくさんの学童野球の子どもたちを招待できたことなど、教育における場面において嬉しい出来事が多数ありました。 本日の総合教育会議において、「教育大綱の見直しについて」協議したいと考えておりますが、現在の教育大綱は、令和4年度に改訂したもので、計画の期間を令和4年度から今年度末までとしております。教育を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中、時代に確定した教育大綱の見恵しば、2000年によります。教育を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中、時代に確定した教育大綱の見恵しば、2000年によります。
十四世六日	時代に適応した教育大綱の見直しが必要と思われ、本日の議題とさせていただきました。本日は、教育委員の皆様から丸亀の教育に対する思いやご意見、また課題などをお伺いしたいと考えておりますので、忌憚のないご意見をいただきますようよろしくお願いいたします。 それではまず、教育長からお願いします。
末澤教育長	「他を想い 自らを磨き 共に伸びる」という学校教育方針については、教育大綱の

基本理念である「自立」と「共生」から引用し、令和6年度に学校教育方針の大幅な 改訂を行い、その具体的な行動を示すものとして「人づくり石垣プロジェクト」を始 動させました。私も教育現場へ訪問した際などに、「人づくり石垣プロジェクト」の話 をするようにしていますが、5年間の集中プログラムの2年目となるこのプロジェクトが広がりを見せていると感じました。

教育大綱を大きく変える必要はないと考えておりますが、向こう4年間の教育大綱としては、基本理念にある「まちづくりの主役となる人づくりをみんなの力ですすめる」という部分が、注力していきたいポイントになると思います。学校教育だけでないところも非常に重要で、生徒の自立や共生により、自分自身がまちづくりの主役となる意識の醸成についてもクローズアップしていきたいと考えております。

#### 松岡委員

基本理念の「自立」と「共生」は引き続き重要なキーワードとして捉えるべきと考えます。また、将来に渡りコミュニケーション能力はとても重要で、現代は、幼少期から大人と関わる機会も多く、身に付いていると考える一方で、SNS等の対面以外でのコミュニケーションの手段があふれており、その位置付けや取扱いの難しさがあります。やはり、地域の中で子ども同士や大人と関わり、コミュニケーション能力が養われることが重要と考えます。

また、「働き方改革」では、単に教員の業務量の削減に向けた取組と捉われがちでありますが、教員としての本来業務である、子どもと向き合う時間を確保するという点を重視していただきたいです。

### 松永市長

「人づくり石垣プロジェクト」にある不登校対策の状況はいかがですか。

## 末澤教育長

確実に取組は実施されていますが、まだ不登校の児童生徒数の減少につながるといった、変化はなく、人数は増えているものの、伸び率としては緩やかになっています。 取組の効果を数字として示すことは難しいですが、一人一人をみていると学校へ復帰しているケースや、校内サポートルームを利用しながら教室に迎え入れられているケースもあるので、成果として捉えています。

# 松永市長

コミュニケーション能力を高めることは、私も非常に重要と考えますが、子どもた ちにとってどのような方法が効果的でしょうか。

### 松岡委員

家族ぐるみの付き合いや、地域で世代を越えて大人や子どもたちが交流するような 環境があればいいと思います。

### 久保委員

学校教育において懸念しているのは、コロナ禍を機に、子どもたちが楽しいと思えるような行事やイベントが縮小されていることです。不登校の児童生徒も含めて、学校以外にも学びの機会や支援体制は多様にあるが、学校は、集団生活の中で切磋琢磨し、小さな問題解決を繰り返す中でコミュニケーションの力を養い、社会性を育む場

所であるという存在意義を踏まえると、行事やイベントの意義や価値を再認識して、 子どもたちが楽しさを味わうことができる体験活動として、教育課程の工夫が必要と 考えます。

井下委員

丸亀の教育の良さとは、地域全体で子どもを見守る温かさがあり、あいさつが自然と生まれるような、日常の中で地域とつながり、地域に育てられているという感覚があるところです。ただ、共働きや多忙さで保護者同士の関係が希薄になり、地域と関わりを持つ機会を逃している場合もあるので、地域の情報の共有方法を工夫し、学校と家庭、地域で支える仕組みづくりや、学校支援ボランティアや地域、PTA それぞれにお願いすることを縦割りにせず、誰もが手を貸せるような関係性を築いていただきたいです。

末澤教育長

学校現場の課題や困りごとなどの解決に向けて、学校運営協議会でもアイデアをいただきながら、同じ方向性で学校や地域との関係づくりを広げていきたいと思います。

久保委員

地域の協力を得て学校づくりを進めていく上で、学校運営協議会においては学校現場の課題解決の糸口となって力添えをいただけるような立場にある方に委員となってもらうなどして、機能を強化していく必要があると思います。

松永市長

学校運営協議会の委員はどういう方が担っていますか。

末澤教育長

コミュニティ会長や、PTA 会長や役員、民生児童委員、学識経験者として教員 OB などを学校が推薦しています。

井下委員

以前に参加していた感想としては、年間2回の学校運営協議会の開催では、課題についての検証や、意見を返す機会がないので、せっかくの協力体制が十分に活かされていないと感じました。

末澤教育長

学校と学校運営協議会が本来の理念や趣旨を理解した上で、形だけではなく上手く機能するよう主体的に取り組む必要があります。

久保委員

学校運営協議会については、学校運営の責任を担う仕組みではあるが、実際は、校長がその仕組みを効果的に活用する、いわば経営意識を持って関わっていくべきと考えます。

教育大綱の基本理念については、大切なことがコンパクトにまとめられているので大きく変える必要はないと思います。5項目の基本目標については、「教育環境の整備」が2番目にありますが、これは、他の4項目は具体的な目指す姿として綴られている内容であるのに対し、それらを実現させるための方策としての内容であるので少し違和感を感じますが、あえて2番目に掲載したのは意図があってのことなのだろうと思

いました。

松永市長

就任以降、教室不足の解消や校舎の改修・改築、室内運動場への冷房の設置など、 児童生徒が学べる環境づくりとして、学校の施設整備に注力してきました。

久保委員

子どもへの市長の思いがあり、それこそが2番目に掲載した意図であると理解できました。ただ、この「環境の整備」は、学校教育だけに限らず、文化芸術やスポーツの振興も含めた環境を整備して下支えするというイメージで5番目に記載してもいいのではないかと思います。

末澤教育長

学校をとりまく環境やそれに対するまなざしなど包括的な環境整備という理解もできるため、記載の方法について検討いただければと思います。

立石委員

現行の教育大綱に合わせて学校教育方針や人づくり石垣プロジェクトを策定してきたので、大幅な見直しではなく、時代に沿った表現とするよう文言などの修正が必要と考えています。

皆さんのご意見を伺う中で、生涯にわたり、役割が変化しながらも教育に関与し続けることを考えると、次の世代へも教育が充実した幸せなまちであってほしいという願いがあります。現在も、市長を筆頭に教育委員会や学校、地域が一体となり取組が進められており、教育大綱の基本理念にある「みんなの力ですすめます」という表現は、みんなが主役で役割が与えられ、それにより子どもが成長するという定義として、大切だと思います。

教育課程においても、定められた授業のコマ数の中で、学力向上だけを目的としない柔軟な改革が必要であるし、不登校の児童生徒へも、学校で養護教諭や図書館司書など多くの人が接することができるような工夫をすることで、少しでも良くなればいいと思います。

また、スマートフォンを使用する時間が長いことは、学習や生活へも影響がありそうで不安に感じており、明確な解決策はないが、時代の潮流に合わせて対策を講じていかないといけないと思います。

末澤教育長

子どもたちは、機会を与えたらすごく積極的に動いてくれる力を持っている一方で、 自分主体で行動するとなると上手く表現できていないように思います。他に対する要 求が多く、周りの目を過度に気にするような社会でありますが、自分自身をしっかり と成長させるためには、転ばぬ先の杖を与える教育より、つまずいたり失敗したりす るその経験が糧になることが理解されるような教育であるべきと考えます。

松岡委員

失敗を恐れて思い切ったことができない風潮から、失敗しても大丈夫という感覚を 養うような教育が実践できるよう、社会理解を促すというところで、教育大綱にも目 指す姿として入れていただきたいです。 久保委員

子どもが集まって学び、生活する学校の意義を再認識し、集団活動を構成していく、 というような文言が施策の方向性に入れ込むことができないかなと思います。

松永市長

ありがとうございました。本日たくさんの意見をいただきましたので、現行の教育 大綱の方向性を維持しつつ、見直しを検討してまいります。

真鍋課長

本日いただいたご意見などを参考に、次回の総合教育会議で見直しの方針や、教育 大綱(案)をお示しいたします。また、その間、お気づきの点などがあれば、事務局 までお知らせください。

末澤教育長

例月の教育委員会の中での意見などがあれば報告します。

松永市長

ほかに質問等なければ、以上をもちまして本日の会議を終了いたします。

(会議終了)